

市政トピックス

# 仙台育英学園高等学校陸上競技部に「賛辞の楯」を贈呈

男子第70回、女子第31回全国高等学校駅伝競走大会において、仙台育英学園高等学校陸上競技部が、26年ぶり2回目の男女同時優勝を果たしました。2度の男女同時優勝は全国初の快挙であり、その功績をたたえ、1月30日、「賛辞の楯」を贈呈しました。賛辞の楯は、芸術、文化、スポーツなどの分野で優れた功績を残した市にゆかりのある個人や団体に贈るものです。市長は「大きなプレッシャーの中、仲間を信じ、たすきをつな



▲男女同時優勝を果たした仙台育英学園高等学校陸上競技部の皆さん

市政トピックス

いだ姿は、多くの市民に感動を与えてくれました。それぞれの将来に向かって、羽ばたいてほしい」と、選手たちをたたえました。

男子主将の菊地駿介選手は「周囲の支えがあり優勝できた。表彰を力に変えて、これからも頑張っていきたい」と力強く語り、続いて女子主将の木村梨七選手は「前大会では、連覇を逃し悔しい思いをしましたが、この大会で結果を残すことができた」と話しました。また、鈴木市議会議長から「仙台市議会議長特別表彰」も行われました。

市政トピックス

## 市民センター市民参画型事業の成果を発表

市民センターでは、子どもや若者、住民がそれぞれ主体となって地域の課題解決や地域資源の発掘をテーマとした学び合いや交流活動を行っています。その成果報告会が、1月19日にせんだいメディアアテークで開催されました。

ステージでは、愛子地区を流れる住民に親しまれている川、千代老



▲田子地域の風景・歴史等をまとめた冊子「田子今昔物語」作成に取り組む皆さんの発表

いだ姿は、多くの市民に感動を与えてくれました。それぞれの将来に向かって、羽ばたいてほしい」と、選手たちをたたえました。

市民センターでは、子どもや若者、住民がそれぞれ主体となって地域の課題解決や地域資源の発掘をテーマとした学び合いや交流活動を行っています。その成果報告会が、1月19日にせんだいメディアアテークで開催されました。

市政トピックス

## 中小企業の成長を後押し

地域経済活性化のさらなる推進に向け、1月28日、仙台国際セン

ターにおいて、「仙台市中小企業成長フォーラム」が初めて開催されました。

第1部は、新規株式上場を目指す企業へ集中支援を行う「仙台未来創造企業創出プログラム」の認定企業8社の経営者と都市長との公開対談が行われました。経営者からは、「生まれ育った仙台で上場し、ロールモデルになりたい」など仙台で上場を目指す思いが語られ、熱い議論が交わされました。第2部では、社会的課題解決と働きやすい職場環境づくりに取り組む企業に贈られる「仙台『四方よし』企業大賞」の最終選考会を初めて公開で実施。

審査の結果、高齢者住宅や介護施設、保育園などの複合型施設「アングランチ」を経営し、多世代の日常的な交流を通して、地域づくりに取り組む株式会社未来企画が大賞を受賞。また、株式会社関・空間設計、株式会社深松組の2社が優秀賞を受賞したほか、特別賞には、株式会社サムライアロハが選ばれました。

このほか、昨年5月に立ち上げた地域ブランド「都の杜・仙台」の紹介と、お菓子などの商品の試食も行われ、多くの方でにぎわいました。

市政トピックス

## 交流促進に向けて「タイ・バンコク訪問」

昨年10月に「仙台ーバンコク」間の定期直行便が運行再開したことを受けて、都市長を団長に、市議会、仙台国際空港株式会社、仙台商工会議所などの関係機関約40名からなる訪問団が、1月22日、26日の日程でタイの首都バンコクを訪問しました。

現地では、本市と観光に関する相互協力協定を締結しているタイ国政府観光庁やタイ国際航空等を訪問し、これまでの交流促進や、定期便再開に対する感謝を伝えるとともに、路線のさらなる利用拡大に向けて意見交換を行いました。また、タイの旅行者等を対象に、仙台の観光情報や、牛タンなどの特産品を紹介し、仙台・東北の魅力を広げPRしました。

市政トピックス

## スポーツで活躍した個人・団体を表彰

2月7日「仙台市スポーツ賞」の表彰式が行われました。これは、昨年1年間にアマチュアスポーツの分野で優秀な成績を収めた方や、本市のスポーツ振興に貢献された方に贈るものです。

大賞は、団体の部では、第47回日本車いすバスケットボール選手



▲岡崎陽向選手



▼五十嵐雄也選手

権大会において、大会11連覇を達成した宮城MAXが受賞。個人の部では、ISU（国際スケート連盟）フィギュアスケートジュニアグランプリファイナルにおいて日本人男子4人目の優勝を果たした、佐藤駿選手が受賞しました。宮城MAXの五十嵐雄也選手は、「受賞を大変うれしく思います。これからも、心を揺さぶるプレーを見せていきたい」と、第12回全日本ジュニアテコンドー選手権大会で優勝し、個人の部で栄光賞を受賞した岡崎陽向選手は「多くの方たちの応援があり、続けることができ。2024年開催のパリオリンピックでの金メダルを目標に頑張りたい」と抱負を語りました。このほか、栄光賞、優秀賞、奨励賞、功労賞を計76組に贈呈。当日欠席となった佐藤駿選手には、2月15日に贈呈式を行いました。

# 3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」。

「方言を伝える 3.11 東日本大震災被災地における取り組み」の句集」



大野眞男・小林隆／編 ひつじ書房 刊

東日本大震災から、もうすぐ丸9年が経とうとしています。物理的なものの復興は進んでいますが、心の復興についてはどうでしょうか。

本書は、生活語としての方言に注目し、方言を通して心の復興を訴えるものです。文化庁の委託を受けた実践活動が紹介されており、その先には文化としての方言の継承の願いが込められています。ことばは時代や環境とともに変化していくものですが、生まれ育った土地のことばが与えてくれる懐かしさや安心感は、心のふるさとと呼べるものではないでしょうか。今後、心の復興が進んでいくことを願うばかりです。



方言を語り継ぐ会／編 銀の鈴社 刊

名取市の「方言を語り残そう会」は、大震災以前から方言を後世に語り残すことを目的として活動しています。本書は、大震災に際しての率直な気持ちを句に込めて編まれたものです。名取市の方言を使い、大震災へのさまざまな思いが綴られています。読み手の「生」の音が聞こえてくるようで、本書を読むと自然と目頭が熱くなります。標準語をフィクションだとすると、方言はまさにドキュメンタリーです。

方言でしか伝わらない感覚があります。方言でしか伝えられない感情があります。本書は、そんなことに気付かせてくれる一冊です。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585